



検査報告書

番号 097

平成20年7月4日

(有)愛知ユウキクラブ 様

財団法人畜産環境整備機構
畜産環境技術研究所長 印



検査材料受領日 : 平成20年6月24日
検査材料の名称 : 馬糞堆肥
畜 種 : なし(馬)

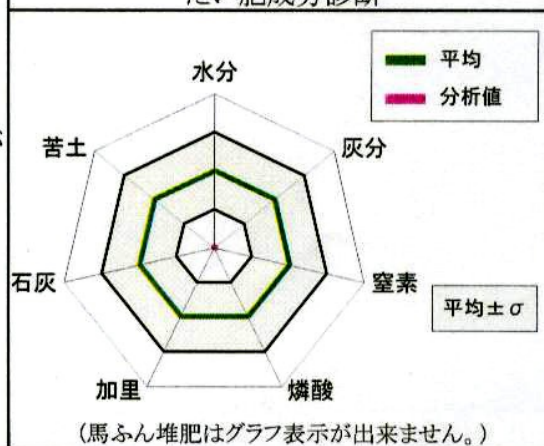
検査結果を下記のとおり報告いたします。なおこの検査報告書は、当研究所に送付されてきた検査材料について検査したものであって、当該検査材料以外の品質等について証明するものではありません。

検査項目	検査結果		検査方法
水分	41.9	%(現物中)	「堆肥等有機物分析法*」による
灰分	45.3	%(乾物中)	同上
pH	8.2		同上
EC	5.6	mS/cm	同上
窒素全量	1.6	%(乾物中)	同上
リン酸全量	1.6	%(乾物中)	同上
加里全量	3.6	%(乾物中)	同上(ICP法)
石灰全量	1.8	%(乾物中)	同上(ICP法)
苦土全量	0.7	%(乾物中)	同上(ICP法)
炭素率(C/N比)	17.5		同上
銅全量	23	mg/kg(乾物中)	同上(ICP法)
亜鉛全量	142	mg/kg(乾物中)	同上(ICP法)
発芽率	95	%	同上
酸素消費量	0.8	μg/g/min	「コンポテスター」による**
臭気指数	24		「におい識別装置」による**

コメント:

牛、豚、鶏等の家畜ふん堆肥に比べ、つぎのような特徴があります。
灰分がやや高く、窒素、苦土がやや低いです。肥料として用いる場合、現物2トン/10aとして、窒素20kg、リン酸20kg、加里40kgになります。
銅、亜鉛は問題ありません。
酸素消費量(易分解性有機物含量)、発芽率の結果は十分に腐熟が進行したことを示しています。
臭気は一般的な範囲です。

たい肥成分診断



* 農林水産省農業環境技術研究所「肥料分析法」(1992)に準じた方法(日本土壤協会)

** 畜産環境技術研究所方式